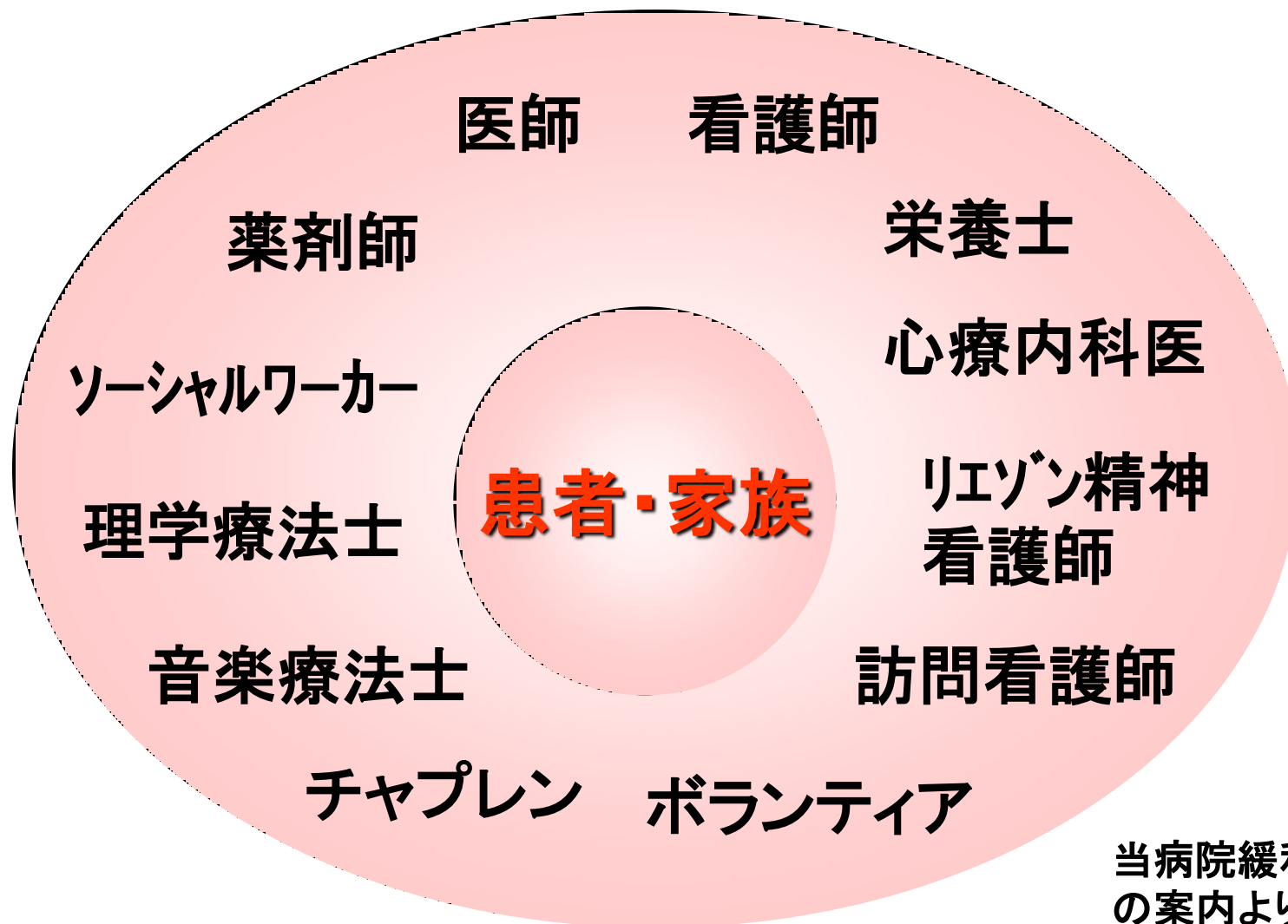


急性期医療機関における チーム医療の実際

聖路加国際病院
がん看護専門看護師
中村めぐみ

患者とその家族を中心とする 多職種合同チームでのアプローチ



患者満足度向上をめざす がんチーム医療の基本

コミュニティーリソース

家族 介護サービス 社会福祉団体 患者支援団体
医療機器会社 製薬会社 研究所 マスメディア

ベース サポート

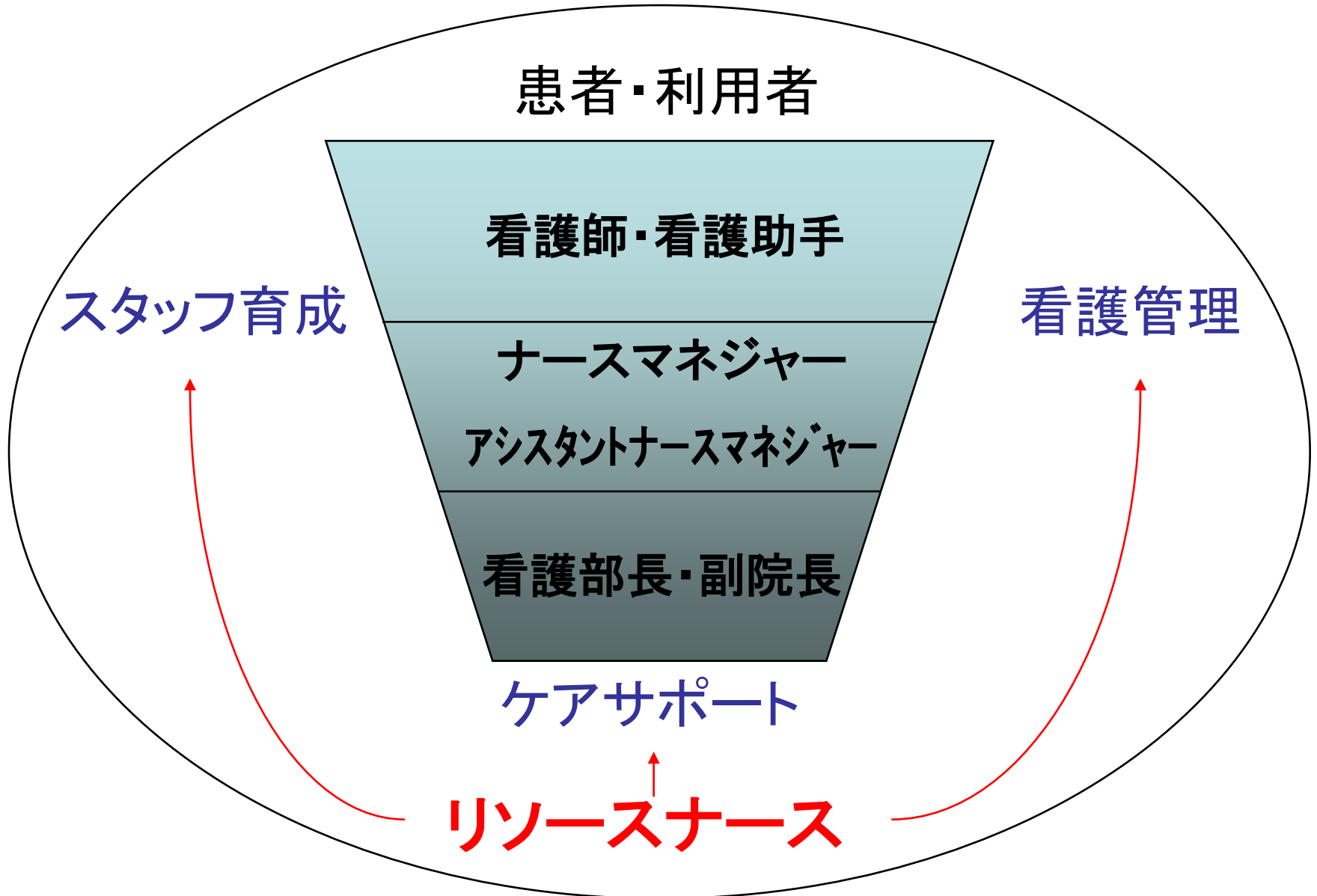
ソーシャルワーカー
心理士 宗教家
作業療法士
臨床工学技士
チャイルドライフスペシャリスト
ボランティア

アクティブ ケア

各科専門医師
看護師 薬剤師
放射線技師
検査技師
理学療法士
栄養士

患者

当院看護部組織概念図



当院リソースナースの職務規定

<役割>

看護の専門分野の知識・技術を活用し、看護職員や他の医療従事者への啓蒙活動を行うとともに、必要時患者に直接ケアを提供することを通して看護ケアの質保証に貢献する

<機能>

1. 各専門領域に関する看護実践を提供し、スタッフを支援し、役割モデルとなる。
2. 専門領域に関する教育計画を立て、指導するとともに結果を評価する。
3. 各専門領域に関する相談を受け、専門的知識に基づいた助言を行う
4. 各部門の協力・協調が必要な場面で、専門的分野についての意見を述べ、連絡調整を行う。
5. 研究に関心を持ち、参加することで、知識・技術の向上を図る

<資格>

専門分野に関する卓越した知識・技術を有し、看護部長が承認した看護師

当院におけるリソースナースの活動 その1

がん看護 専門看護師	緩和ケア病棟・外来、オンコロジーセンターで活動 医師・薬剤師と緩和ケアチーム結成 栄養士・MSWと患者支援プログラム開催
乳がん看護 認定看護師	医師・薬剤師らとブレストチーム結成 リンパ浮腫ケアの指導・実施
化学療法看護 認定看護師	腫瘍内科医師・薬剤師と回診 がん治療ケア検討会開催
皮膚・排泄ケア 認定看護師	褥瘡予防対策チーム結成 医師と合同回診 褥瘡発生率の算出と危険性を評価
訪問看護 認定看護師	定期病棟ラウンド MSWと連携 退院調整カンファレンス開催

当院におけるリソースナースの活動 その2

急性・重症疾患 専門看護師 救急看護 認定看護師 呼吸療法認定士	医師・臨床工学技士・理学療法士らと連携 呼吸療法サポートチーム結成 一般病棟コンサルテーションによる活動 クリティカルケア検討会開催
透析看護 認定看護師	医師、臨床工学技士、PDナースと連携 腹膜透析外来実施
糖尿病療養 指導士	医師・フットケアナースと連携し糖尿病教室開催 ナースクリニック実施
排泄機能 コーディネーター	排尿機能専門外来実施

当院におけるリソースナーズの活動 その3

小児看護 専門看護師	小児医療センターで活動
インфекション コントロール プラクティショナー	医療安全管理室所属 医師と連携し、サーベランスの実施 感染予防ケア検討会開催
リエゾン 精神看護師	精神科医師と連携 各領域からのコンサルテーションへの対応
栄養サポート 検討会	医師・栄養士・薬剤師・臨床検査技師と連携 NSTの活動支援 リンクナーズの育成
摂食嚥下障害 検討会	口腔外科医師・歯科衛生士と連携 スキルアップクラス開催

専門看護師・認定看護師の概要

2009/6/5現在

	専門看護師	認定看護師
目的	複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識及び技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかる。	特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかる。
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・実践 ・倫理調整 ・相談 ・教育 ・調整 ・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践 ・指導 ・相談
経験	実務研修が通算5年以上。そのうち3年間以上は専門分野の実務研修。このうちの6ヶ月は修士課程修了後の実務研修であること。	実務研修5年以上(うち3年以上は認定看護分野の実務研修)。
教育	看護系大学院修士課程修了者で、日本看護系大学協議会が定める専門看護分野の専門看護師カリキュラム総計26単位を取得していること。	認定看護師教育課程修了(6ヶ月・600時間以上)。
専門・認定看護分野(人)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護(128) ・精神看護(52) ・地域看護(9) ・老人看護(14) ・小児看護(27) ・母性看護(17) ・慢性疾患看護(25) ・急性・重症患者看護(26) ・感染症看護(1) ・家族支援(3) <p style="text-align: center;">* 2009年6月現在 合計302人</p> <p>※家族支援以外広告可(9分野)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法看護(416) ・がん性疼痛看護(395) ・感染管理(960) ・緩和ケア(754) ・救急看護(419) ・集中ケア(471) ・手術看護(150) ・小児救急看護(88) ・新生児集中ケア(140) ・摂食・嚥下障害看護(155) ・透析看護(95) ・糖尿病看護(201) ・乳がん看護(106) ・認知症看護(94) ・皮膚・排泄ケア(1,132) ・不妊症看護(87) ・訪問看護(131) <p style="text-align: center;">* 2009年6月現在 合計 5,794人</p> <p>※全分野広告可(17分野) ※2009年新たな分野 教育開始 (19分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中リハビリテーション看護 ・がん放射線療法看護
教育機関	34大学院102課程 (2009年1月現在)	42 機関 75 課程 (2009年1月現在)
認定機関	日本看護協会	専門・認定看護師認定証交付・登録(5年ごとの認定更新制)

教育および認定システム



専門看護師

更新率 : 89.5%

1. 看護系大学院修士課程修了者で日本看護系大学協議会が定める専門看護分野の専門看護師カリキュラム総計26単位を取得していること
2. 実務研修が通算5年以上。そのうち3年間以上は専門看護分野の実務研修。このうちの6ヶ月以上は修士課程修了後の実務研修であること

認定審査

- * 書類審査
- * 筆記試験

認定審査

- * 書類審査
- ・活動報告書
- ・研修実績
- ・研究業績等の看護実績報告書

認定更新

日本国の保健師、助産師、および看護師のいずれかの免許を有すること

実務研修5年以上
そのうち3年以上は認定看護分野の実務研修

認定看護師教育課程修了
(6ヶ月・600時間以上)

認定審査

- * 筆記試験

認定審査

- * 書類審査
- ・活動報告書
- ・指導、研修、学会の参加等への発表等自己研鑽の実績報告書

認定証 交付・登録

(5年ごとの認定更新)

更新率 : 89.4%

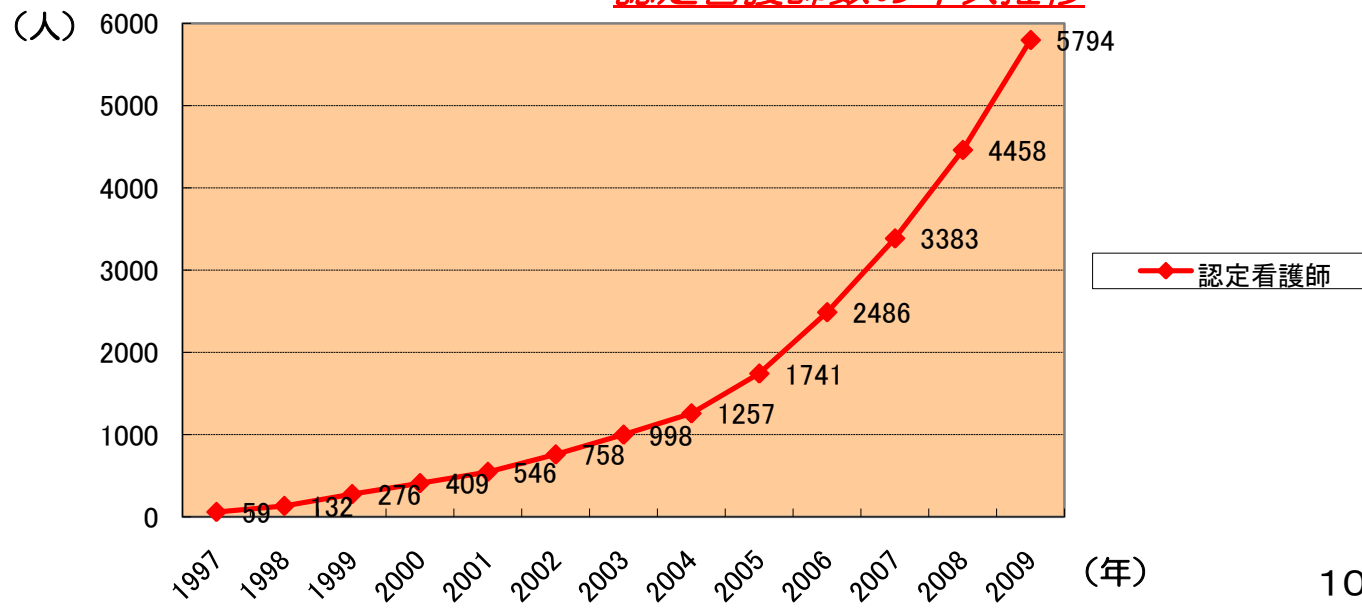
認定看護師

専門・認定看護師数の年次推移

専門看護師数の年次推移



認定看護師数の年次推移



一般看護師と専門・認定看護師の違い

ジェネラリスト (一般の看護師)

特定の専門あるいは看護分野にかかわらず、どのような対象者に対しても経験と継続教育によって習得した多くの知識・技術・能力を、その場に応じて発揮する。

協働

スペシャリスト (専門性の高い看護師)

特定の専門あるいは看護分野で卓越した実践能力を有し、継続的に研鑽を積み重ね、その職務を果たし、その影響が患者個人に留まらず、他の看護職や医療従事者にも及ぶ存在である。

当院における専門・認定看護師の活動状況

病院規模・入院病床数＝520床 1日平均外来患者数＝2500人

専門看護師		認定看護師	
がん看護 (看護管理室、緩和ケア病棟、 オンコロジーセンター)	3名	がん化学療法看護 (オンコロジーセンター、 外科病棟、小児科病棟)	3名
		乳がん看護 (ブレストセンター)	1名
急性・重症患者看護 (救命救急センター)	1名	救急看護 (救命救急センター)	2名
		透析看護 (腎センター)	1名
小児看護 (小児医療センター)	1名	皮膚・排泄ケア (看護管理室)	1名
		訪問看護 (訪問看護ステーション)	1名

がん看護専門看護師の横断的活動

緩和ケアの実践

- 緩和ケア外来での相談支援（専門看護師面談枠設定）
- 電話相談への対応
- 緩和ケアチームでのコンサルテーション活動
- 緩和ケア病棟運営の支援

がんサイバーの支援

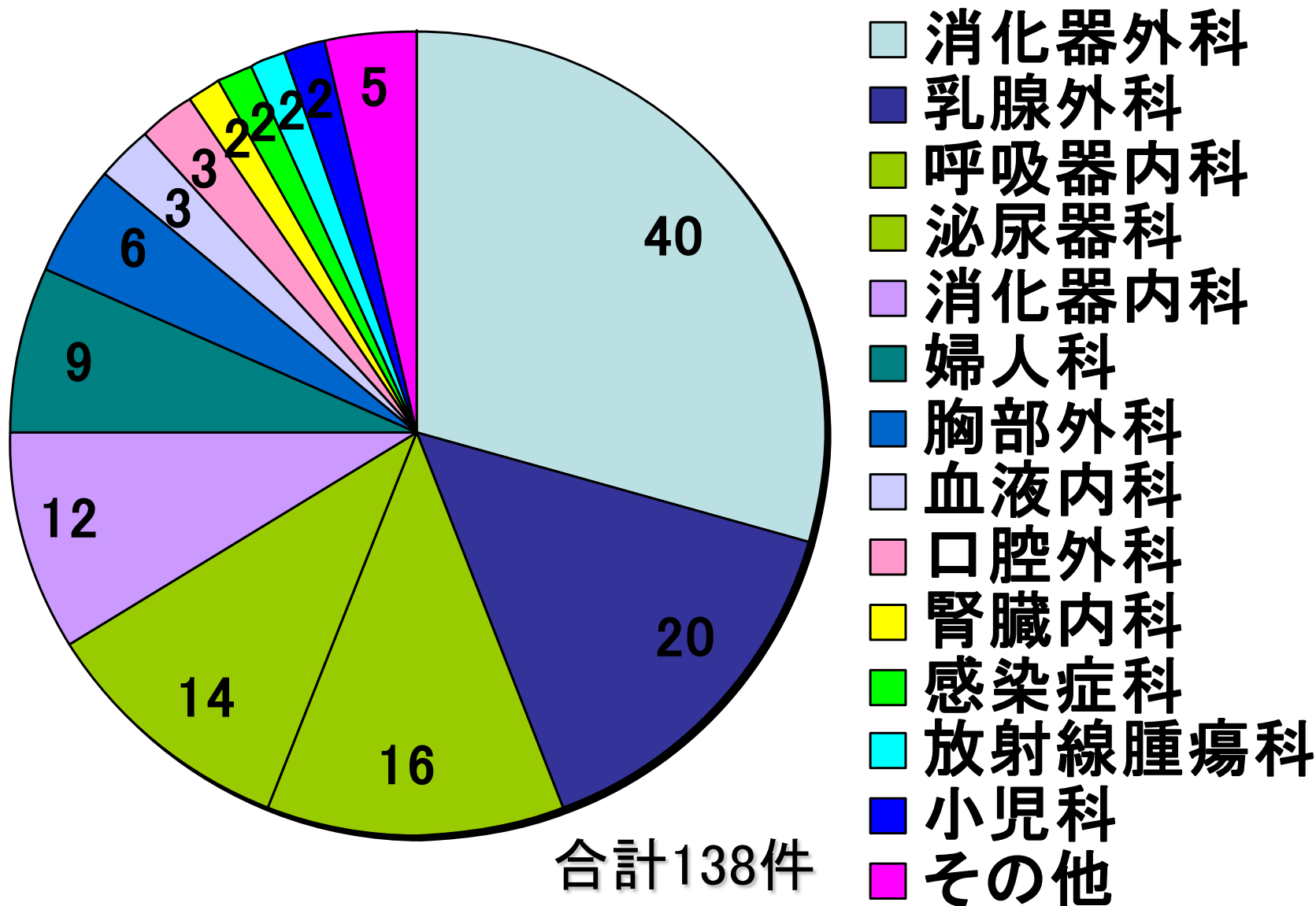
- がん治療と緩和ケアのコーディネーション
- 患者・家族のためのサポートプログラムの開催

看護師の教育

- 教育プログラムの開発 オンコロジーナースの育成
- 研修生の臨地実習指導
- 臨床研究への参加 看護研究・発表の推進

がん診療連携拠点病院としての役割遂行

08年度 当院緩和ケアチームへの依頼診療科



緩和ケアチームにおける主な役割分担

医師	<ul style="list-style-type: none">* 症状の原因を検索し、診断する* 適切な処方アドバイスを
薬剤師	<ul style="list-style-type: none">* 処方薬歴の把握* 検査値の把握(肝・腎機能への影響を考察)* 薬剤の効果・副作用・相互作用などの把握* 服薬指導
看護師	<ul style="list-style-type: none">* 患者・家族・医療者にとっての問題の明確化* 患者のQOL、全人的苦痛の視点からのアセスメント* 患者の病状理解や意思決定のサポート* 薬剤の選択あるいは対処方法の根拠の共有* 患者・家族・医療者に対するケア上のアドバイス

チーム医療の成果

- ・ 複数の視点を得ることで、患者を多角的に見ることができる
- ・ 話し合うことで、総合的に判断できる
- ・ 患者中心に目標を定めることで、方針の統一を図ることができる
- ・ 各々の専門性を発揮することで、質の高い医療が提供できる
- ・ 多職種が結集することで、多くのニーズを満たすことができる
- ・ 協働することで、互いの理解が深まり補い合うことができる

チーム医療実現に向けて 専門性の高い看護師に期待される行動

- ・ 各々の組織の特性や状況を見極め、ニーズに合致した活動を行う (個人がやりたいことではない)
- ・ 根拠に基づいた知識・技術を活用し、患者にとって有益なケアを効率的に提供する (倫理的視点に立つこと)
- ・ 専門領域においては、協議の上である程度の権限を持つと同時に、限界をわきまえる (自律と責任)
- ・ 自己の役割や活動内容を明文化し、評価の視点をもつ
- ・ 他職種の専門性を理解し、それぞれの強みを生かして互いに支え合う (他者を信頼し受け入れる風土づくり)
- ・ 日常的にもコミュニケーションを良くし、調整役を担う
- ・ 新たな取り組みにおいては、リーダーシップを発揮する